（別紙4）　　令和　4　年度

1　自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	2294201401		
法人名	株式会社ファミーユ		
事業所名	グループホーム　つぐみ押切		
所在地	静岡県静岡市清水区押切2119-1		
自己評価作成日	令和4年9月22日	評価結果市町村受理日	令和4年11月16日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action_kouhyou_detail_2016_022_kani=true&JigyosyoCd=2294201401-00&PrefCd=22&VersionCd=022

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	株式会社第三者評価機構　静岡評価調査室
所在地	静岡市葵区材木町8番地1　柴山ビル1F-A
訪問調査日	令和4年10月6日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

理念である「利用者様の思い願いを第一に考えるケアの実践」を理念に、一人一人の今までの生活歴や性格、大切にしてきたもの、繋がり等のアセスメントを細かく行い、職員が把握、情報を共有し合い、グループホームでの生活に活かせるよう心掛けています。私たちは、たとえ認知症があっても常に傍に寄り添い、その方を尊重し、その方の思いを大切にしています。言葉や行動への戸惑いがあっても、その方の立場になって考え、そのしぐさや行動から読み取り、気持ちを汲んで共同生活に活かしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

法人内の異動で新たな管理者を迎え、これまで長く此処に勤務している主任とタッグを組んで、再スタートを切っています。「自分のやりたい介護ができる場所」として、法人理念「一人ひとりの思いを大切に」を支柱とする管理者は、「ゆっくりとした時間をとり、より密に接すること」を職員にも奨励しており、本年度のユニット目標も「にこり　ほっと」と、毎日ニコッとしてホッとする空間づくりを目指しています。お互いにリスクを考えて接触はないものの、ご近所づきあいのある保育園からハロウィンの衣装を身につけた園児がテラスから見えるところまでやってきて愛らしい笑顔を振る舞ってくれた日は「にこり」を超え満面の笑顔でした。

Ⅴ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる （参考項目：23,24,25）		1. ほぼ全ての利用者の
		○	2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある （参考項目：18,38）	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている （参考項目：38）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている （参考項目：36,37）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている （参考項目：49）		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
		○	4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている （参考項目：30,31）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている （参考項目：28）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている （参考項目：9,10,19）		1. ほぼ全ての家族と
			2. 家族の2/3くらいと
		○	3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている （参考項目：2,20）		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度
		○	3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている （参考項目：4）		1. 大いに増えている
			2. 少しずつ増えている
		○	3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている （参考項目：11,12）		1. ほぼ全ての職員が
		○	2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
		○	3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての家族等が
			2. 家族等の2/3くらいが
		○	3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

静岡県(グループホーム　つぐみ押切)

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)＋(Enterキー)です。〕

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	利用者様の思いや願いを第一に考えるケアの実践を理念とし、月1回の職員研修、年2回の個別面談などで理念について全員で再確認している。	全体会議が毎月開催され、「利用者中心のケアが出来ているのか」「寄り添った関わりがあるのか」との現状と反省が職員から挙げられています。また面談を通じての確認機会もあります。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近所の保育園との交流では、施設の周りを園児が歩いてハロウィンの様子を見せてくれ、コロナ対策をしながら、お菓子の交換を行った。	目と鼻の先にある保育園とは交流があり、園の好意でハロウィンイベントの様子を園児が届けてくださってます。階下に降りれば1階のテラスで愛らしい衣装も間近で見ることが出来ています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	現在、面会での地域交流の機会がなく、活かしきれていない現状である		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍を考慮し、文書による情報提供と報告にて対応している。ご家族様へは面会や電話連絡時などでも伝えている。	コロナ過で参加できず書面開催となってはいますが、メンバーである民生委員と地域包括支援センターには直接届け、立ち話なものの情報交換が叶っています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	生活保護の方や後見人が必要な方など、生活支援課や介護保険課の方に、日々の報告や相談を行い協力関係を築くようにいている。	国から届いた検査キッドは疑いがあればすぐ使えるよう保管しています。市からのメール配信は都度確認するとともに、地域包括支援センターとは主任が関係を築いており円滑な情報共有があります。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	年2回以上身体拘束や虐待をテーマにした研修を実施し、学び、意識の向上に取り組んでいる。また法人全体でも委員会を設置し毎月検討や見直しを行い職員に伝えている。	身体拘束に係る学びを重ねています。センサーについても「ゆっくり就寝できる環境を整えて差し上げたい」との目的で設置していますが、「なぜ頻回に起きてしまうのか」は注視しており、24時間シートも作成中です。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	職員研修を通して、虐待や身体拘束への理解を深めている。また、日頃からスピーチロックや日々の言動について気になるケアについては話し合い、注意している。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	後見人等制度を利用しているご利用者がいるため、 制度について口頭や書面で職員の学ぶ機会を設けている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	書面や口頭で丁寧に説明し、質問や不安な点を確認している。必要に応じて再度説明し理解を図っている。		
10	（6）	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ケアプラン更新時、担当者会議等の電話連絡や面談時にご意見などを聞き、会社や職員に共有し反映している。	「お通じのコントロールができずに不穏となって事業所に迷惑をかけるのではないか」と心配する家族からは連絡が比較的多くあるため、事業所からも都度入れて連携を図っています。	新しい管理者が配置されることは前管理者から利用者家族には伝えていますが、未だ全ての家族に新管理者は会えてないため、自己紹介のお便りをだしておくことを期待します。
11	（7）	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者と主任が職員の個人面談を年2回行い、職員の意見や質問を聞いている。処遇や働き方など意見を聞き、会社に報告している。	職員会議はパートタイマーも含む7名全員参加ですが、発言が少ない職員には「これはどう？」と主任が意見を吸い上げるほか、三者面談（管理者・主任・本人）も傾聴の機会としています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は定期的に事業所に伺い職員の日々の仕事ぶりを確認したり、管理者からの報告を受け給与水準、労働時間、やりがいが持てる様施設環境、整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	全体会議にて内部研修毎月1回（テーマ2つ）、外部研修（認知症実践者研修や介護技術）、また新人にはOJTによる教育を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会で開催している研修などに参加し、他事業所との交流を図っている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人との会話をそのまま記録したりし、思いを知っていく。ご本人や家族の意向をできるだけ実現できるよう努める。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約前に、ご家族からの困りごと、ニーズを聞き出し、アセスメントを行いながら関係性を築いている。利用後も近況の様子や細かいことも伝えるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご利用者、ご家族の今必要としていることを聞き取り、心身状況から実際のプランに反映し、ケアに取り組んでいる。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	関係作りを深めるよう、感染対策を行いながら家事活動(洗濯など)も一緒に行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月の活動の様子を写真や報告書にまとめて家族に郵送したり、感染対策に注意したなかで、本人、ご家族と相談しながら外出する機会なども提案している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	できるだけ自宅で過ごした環境に近づけるよう、ご自宅で使い慣れた家具や小物、食器を持参していただいている。また馴染みの友達の方とTELして連絡をとることもある。	ちょと前までは編み物をしたり、漫画本に没頭する人もいました。現在は童謡が好き人がMyラジカセで楽しむ姿があったり、毎日餡子が食べたい人にはお粥の上に職員が毎食乗せています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者同士が関わりが深まるよう、職員が入って会話を楽しんだり、工作や家事を皆さんで共に行い、助け合ったり、達成感を味わっていただけるよう努めている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご利用終了となった方についても、ご家族などから相談があった際は対応するよう努めている。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の中で利用者の発言や様子などから職員同士が記録に書いたり会議等で話し合いながら希望や意向を把握するようにしている。	「私の暮らしシート」は、熟練者は時系列にポイントを掴んだ整理ができています。パートタイマー職は夜間帯が見えにくく、また観察記述が苦手な人などもいますので、標準化が求められます。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご利用開始前に面談し、在宅生活での暮らしの様子を把握したり、生活歴やこだわり、家族関係、これまでのサービスの経過等の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	申し送りや記録等で日々のご利用者の様子を観察、共有し、個々のご利用者の一日の過ごし方や心身状態、有する力を常に意識、把握できるようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当者会議や職員会議等でその方らしい生活に向けて、ケアのあり方や課題を抽出し、解決に向けた取り組み内容の意見を出し合い、介護計画に反映させている。	介護計画書の更新では、カンファレンスや利用者本人に確認するのは無論のこと、補充品を届けに訪問した折に家族に時間をもらって要望を聞くなどして、「チームでつくる」につなげています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録、申し送りを行い共有・実践・見直しに努めている。職員会議等で出た意見を検討し、介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者や家族との連絡時において、新たなニーズがないか聞き、あった場合には職員、事業所で検討し実践している。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者一人一人の馴染みのある場所などを聞き、スタッフで共有している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人やご家族と相談しながら、かかりつけ医を決定、連携を図っている。	1名が従来のかかりつけ医を継続、他の8名は月1回訪問する診療医の診察を受けています。医師は看護師を帯同していますが、事業所の看護師が立ちあい「看護日誌」に記録を残しています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常での変化等があった場合は看護師に相談し共有を行い、対応を検討している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	こちらでの生活の様子や基本情報等の情報提供を行っている。定期的に連絡し、状態を確認している。また退院時には退院カンファレンスに参加している		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人及び家族、主治医、看護師と相談しながら方針を決定し、職員もその方針を共有しながらチームとして支援に取り組んでいる。	看取りは医療的な措置が必要なければ取組むこととしています。勤務の看護師は白癬など日常の処置のほか、救急搬送となったときは病院に付き添って適切な医療が受けられるよう医師の支えとなっていて、重度化対応も安心感があります。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	日常業務の中で看護師が職員へ向けて指導を行ったり、職員内部研修で緊急時の対応方法についても学んでいる。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防訓練を年2回行っている。また、食品、水など災害時に必要なものを準備している。	防災訓練は本年度に入ってからは未だ実施はなく、11月と3月を予定しています。水消火器も使い、年2回の実施も欠かしていませんが、不安に思うものの夜間想定はおこなっていません。	夜間想定や台風対策など、一つひとつのリスクや課題を解決すべく、法人の委員会との連携を期待します。

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	アセスメントや日常生活の中での様子や性格から、それぞれご本人に適した声かけ等の対応をしている。また本人に決定権や選択肢が無い声かけにならないよう注意している。	「寒い、暑い」にあわせてドリンクを揃え、飲料は選ぶ機会が日常にあります。女性は「明日なに着る？」といったやりとりが自然にありますが、男性についてはアプローチに課題が残ります。	「つぐみカフェ」は利用者がメニュー表から選べなくなったことから「口頭でき く」ようになったとのことですが、症状に応じて主体性がもてるよう更に検討が進むことを期待します。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で選択できるような質問を行い、自己決定ができるよう働きかけている。また、表情やしぐさからその方の希望を読み取るように心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床、就寝時間、食事や入浴など本人のペースや思いを優先し、希望に添える様に支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時に、その日に着たい服を選んでいただいたり、その方のこだわりを職員間で共有し大切にしている。また、家族との連携も図り、協力してもらっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食べたいメニューを聞き、食事に取り入れたり、片づけを職員と一緒に行うなど食事が楽しめるよう支援している。	「朝食はパン」という3名への提供があり、惣菜は和・洋のお皿が準備されています。また餡子好きの人の家族が水ようかん等を届けてくださるので、食後のフルーツ代わりに提供することもあります。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の食事量や水分量を記録に残している。またご本人の希望や体調を確認しながら栄養バランスの摂れた食事を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアを行い清潔保持に努めている。本人でできる所はしてもらい、難しいところを介護している。また、訪問歯科による定期的な診察や治療、口腔ケア等行っている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを把握し、ご本人に合わせた誘導の声かけや確認を行っている。	3名が車いすを利用しています。2名はベッド上での交換ですが、立位が保てる1名はADLの低下を防ぐためにも「なるべくトイレで」を励行し、体調がよくないと2名介助が必要でも支援しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	生活リズムパターンシートや記録、申し送りで便秘の方を把握し、センナ茶や乳製品、朝1番のお水など予防に努めている。また、体操や歩行訓練など規則正しく生活ができるよう支援している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	ご本人の希望や体調に合わせて入浴を提供している。また、ご本人の入浴時間やペース等に配慮し個々にそった支援を行っている。	入浴は週3回と、法定よりプラス１日増やしています。日によって気分にムラがあるものの、息子と重なるのか男性には比較的穏やかなため、男性職員の出勤日と調整とするケースもあります。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その方の生活習慣や年齢、体調等に合わせて休息を促したり、安心して気持ちよく眠れるように室温や照明を調整している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人ファイルにて保管、把握し、変更時も申し送りや記録にて情報を共有している。また、体調に変化があれば訪問診療時に相談している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴やその方の持っている力を活かせるよう家事の手伝いや趣味を職員と一緒に行い、楽しめる時間を作っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナの状況は続いているが、桜の花見など季節のイベントには出かけるよう努力している。夏は3年ぶりに七夕祭りに行った。	「日本人だもの、桜くらいは見たいね」と桜の花見もあれば、法事でお寺に出かけた人、3年ぶりの開催の清水の七夕まつりも「行くしかない」として感染対策万全で出かけ、利用者が大喜びした日もあります。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	保持している人はいるが以前のように買い物ができない状況である為、外出が難しい場合は代理で購入している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人の希望により暑中見舞いや年賀状を出したり、電話をかけたりしている。兄弟からの差し入れが送られてきた時などは、TELで近況を伝えている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食材の紹介や調理の匂い、室内温度、テレビや音楽等の音等、日常生活の中で五感を刺激したり、季節にあった花や飾りをフロアに置く等、居心地の良い空間を作りに心掛けている。	広いとはいえないリビングですが、それがちょうど家庭そのままで、対面式の調理台はつくる様子も見ることができ、「いいにおいだね」「もうすぐご飯？」と、利用者の五感をくすぐっています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	毎日の気分で、席の変更をしたりする方もいる。また、テーブルにラジカセを置いて好きな音楽を聴いて歌ったりと、居心地の良い環境作りに努めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時から馴染みの家具や好みのものを持ってきていただいたり、好きな物を置いたりしながらご本人が居心地の良い場所になるよう工夫をしている。	自室にテレビを置く人は2名おり、好みの番組をゆったり鑑賞しています。大半の部屋には家族写真やひ孫の写真・命名書等が貼り出され、また家具調のポータブルトイレを持ち込んだ人もいます。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内はバリアフリーとなっており、手摺などで歩行の補助や安全性を確保している。トイレや浴槽も麻痺の状況により使い分けれるよう作られている。		